

～高校生と短大生のコラボによる6次産業化～

令和3年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージ I】採択課題

課題名：生徒、学生の考案による農水産物を活用した地域活性化

研究代表者：宮古短期大学部 教授 松田淳

課題提案者：岩手県立宮古水産高等学校 教諭 吉田順一

研究メンバー：大志田憲（宮古短期大学部）、宮古水産高校生、宮古短期大学部生、ほか

技術キーワード：6次産業化、高校生×短大生コラボ、ビジネスモデル、地域振興

▼研究の概要（背景・目標）

人口減少、少子高齢化が進む岩手県沿岸部において持続可能な地域社会の発展、地元への若年者の定着を推進するために、高校生と短大生が中心となって、地域の農水産物を利用した商品の開発・製造・販売（6次産業化）というプロセスをマネジメントするビジネスモデルについて検証。



開発した缶詰「黒×鯖」

▼研究の内容（方法・経過）

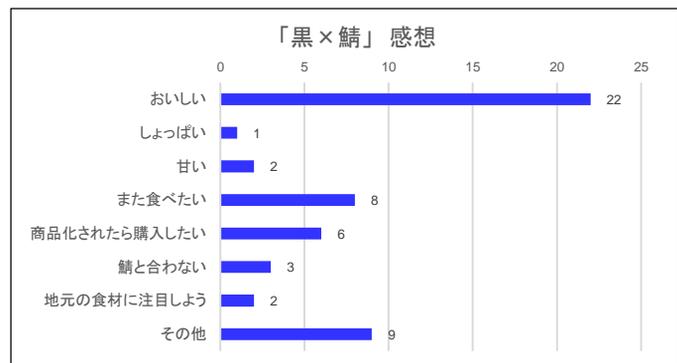
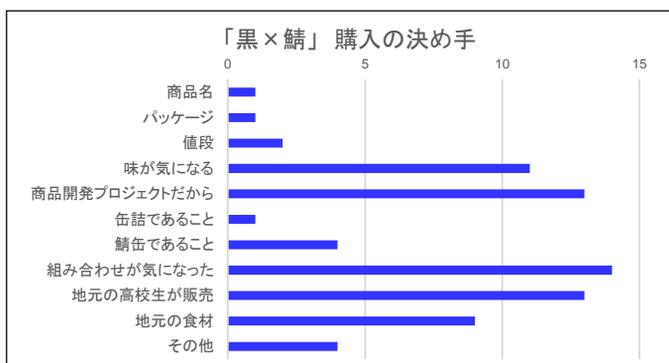
1. 地元食材（宮古の農林水産物）を生かした商品を考案し開発。
2. インパクトをねらったネーミングとパッケージデザインを発案。
3. 食品コンクールへの出品と、その評価を受けてパイヤーと交渉。
4. 商品の最も効率的な製造と効果的な販売のありかたを追究。
5. 高校生と短大生が6次産業化をどのようにマネジメントしたかについて検証。



岩手うんめえもん!!グランプリ 表彰式

▼研究の成果（結論・考察）

1. 高校生と短大生のコラボにより、多数の試作品の中から「黒×鯖」缶詰などを商品化することに決定。商品名やパッケージデザインも生徒・学生自ら考案。
2. 「岩手うんめえもん!!グランプリ2021」に「黒×鯖」缶詰を出品。本学部生が、商品のコンセプトなどについてプレゼンテーションを行った結果、学校部門では「最優秀賞」を、全体でも「優秀賞」を受賞。
3. 宮古地区合同庁舎で「黒×鯖」などを販売するとともに、アンケート調査も実施。好評価を得るとともに、「商品開発プロジェクトだから」「組合せが気になった」などが購入の決め手になったこと、また「おいしい」といった感想が圧倒的であったことに生徒や学生たちは自信を得た。



▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 2連続したコロナ禍での研究であったが、「食」をめぐるプロジェクトという特殊性ゆえに、各種のコンクールが中止になり、パイヤーとの交渉の場が失われるなど、十分な成果が得られなかった点は残念。
2. 販売会やアンケートによれば、地域の生徒・学生が、地域の食材を活用して商品開発を進めようとする点に、地域の皆様が強い関心を寄せてくださっていることは確かであり、今後も形を変えつつ、新たな製造業者や販売業者との連携を強化する意義はある。